

海外研修		実習	国際交流委員会	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200131	

1. 授業のねらい・概要

本講座は、米国の GAF A などの大手有名企業やベンチャー企業など、現在注目されている企業を視察することで、グローバルな視点を持ったビジネス展開を目指す学生にとって刺激となる機会の提供を目的としている。また、同年代の現地学生と交流し、日本の学生との考え方や日頃の学業面・生活面における取り組みの違いを肌身に感じ、人生観や職業観を考えるきっかけ、あるいは就職活動や学業に対する動機付けとなることを期待している。本講座受講後、人生観や生活態度、学業に対する考え方が変化し、将来を見据えた計画・行動がとれるようになること、学生時代に何をすべきかをよく考え、自らの能力を高める行動がとれるようになることが期待される。

2. 授業の進め方

渡航前に計 3~4 回（各回 90 分）の事前講義を実施する。その後、現地に渡り、滞在期間中、さまざまな場所を訪問しながら、現地の方々と交流する。このほか、市内観光を通じて、歴史や文化に触れる時間も確保する。なお、帰国後にレポートを提出することが求められる。なお、諸般の事情により、研修内容が変更になることがある。

3. 授業計画

<p>1. 渡航前：海外渡航に関する注意喚起、訪問先の基礎知識等に関する事前講義（3 回以上）</p> <p>2. 現地滞在中：関連各所への訪問（国際交流、講話受講等）、市内観光等</p>	<p>3. 帰国後：レポート提出</p>
--	----------------------

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

パスポート、ESTA、旅行保険、クレジットカード等の取得に関し、予め定められた期限までに各自しっかりと準備すること。また、渡航先の文化、気候、地理的情報、社会情勢等を調べ、質問等をまとめておくこと（2 時間程度）。日本国籍以外で、入国に際してビザが必要な学生は、然るべきタイミングで取得すること。なお、事前講義の無断欠席、ビザ取得の見込みなし等の事情が明らかになった場合、当該年度の参加を諦めてもらうことがある。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

帰国報告会にて意見交換等実施する。

6. 授業における学修の到達目標

講義やゼミのような通常の座学では得られない経験を得ながら、改めて諸君の住む日本を客観的に見つめると同時に、より広い国際的視野を持ち、多くの人々とコミュニケーションを図れる能力を養成する。また、将来に対して積極的に考え、計画し、行動できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

事前講義への参加状況(70%)、帰国後のレポート(30%)の提出等の状況を見て、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

事前講義や現地訪問先で配布される資料を用いる。

9. 受講上の留意事項

①訪問先や実施時期は別途告知し、実施にあたっての事前説明会を行う予定。

- ②費用は、渡航費，宿泊費，各種視察費等となり，合計で約 30 万円台前半（参加人数により変動，飲食代・娯楽代等は除く）を予定。また，現地訪問先は年度によって変更の可能性あり。
- ③人数が 10 名に満たない場合は本講座を催行しない場合がある。

10. 実務経験のある教員等による授業科目

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。